

第2回安曇野市新市立博物館整備方針検討委員会 会議概要

1	会議名	第2回安曇野市新市立博物館整備方針検討委員会
2	日時	令和6年7月9日(火) 午前10時00分から12時00分まで
3	会場	豊科交流学習センター 多目的交流ホール
4	出席者	笹本正治委員、百瀬新治委員、佐藤亜紀子委員、中村寛志委員、丸山亨委員、倉石あつ子委員
5	欠席者	金井直委員、横山はるえ委員
6	市側出席者	橋渡教育長、三澤課長、事務局、逸見係長、児玉副主幹、原明芳館長、平沢重人館長、寺島俊郎館長
7	公開・非公開の別	公開
8	傍聴人	1人 記者 1人
9	会議概要作成年月日	令和6年7月16日

会議事項等

○会議の概要

1 開会

2 あいさつ(橋渡教育長)

3 協議

(1) 「安曇野市新市立博物館構想」の課題について

(事務局から資料説明)

委員長 新博物館を造ることを前提として具体的にやれる範囲で何を実現していくかを論議していきたい。

特に社会が変わってきている中で、博物館造りについて、安曇野市の住民にとって文化・誇り・未来を創り出すという非常に多くの課題について具体的な話として論議をしたい。

事務局 今回は新市立博物館構想にある通り、延床面積4000㎡の前提でご意見を出していただく。

しかし、延床面積4000㎡が建築できる土地取得が難しい場合も考えられるため、事務局から3つぐらいの案で、それぞれの規模・統廃合案についてコンセプトや各館の役割、予算を示し、検討いただきたい。

委員 統廃合しなかった場合、バーチャル的な統廃合の方法もありうると思う。

内容や課題はこの構想の冊子に集約してあると思うので具体化に向けてこの委員会で構想の中で足りないところを付け足して、あるいは時代の変化に合わせて変えていけばよいのではないかな。

委員長 具体的に何ができるのかということ、教育委員会のほうでも考えてもらい、それに対して委員会も、対案が出せるような形にしていきたいと思う。

繰り返しの論議だけでは、前に行けない。私達の目的は、市民にとって必要とされる博物館をいかにして作り、提供していくかではないかな。

(2) 新市立博物館整備方針の検討にあたって【別紙2】

ア 検討の方向性

イ 検討要素

(事務局から資料説明)

委員 コンセプトについて、どこに建設するかがはっきりしてくると、進んだ議論ができると思うのだが。

委員長 場所はその土地の値段とか、周辺の環境ととても関わってくるので、ある程度決まってからでないと答えられない。ただし問題ではある。延床面積4000㎡できちんと案を作って、足りなければ、削っていけばよく、最初から幾つもの案を作って、時間を無駄にするのは非常に気になる。何を論議して欲しいのかよくわからない。

今回は、過程を示してもらっただけで、具体的には何を論議してほしいのかが見えない。

博物館施設全体のコンセプトおよび各館の担当分野が一番大事だというならば、市民にとって今なぜ博物館が必要かというアピール文を最初に事務局で作って、それを我々が検討・論議するならわかる。

展示面積が我々の理想とする2000㎡でもやれることは限られている。

部屋数が限られるということは、切っていくしかない。

「常設展はこの面積の中で、部屋の数は普通取れるとしたらこの面積だとこのぐらいです」といった案を事

事務局の方から出してもらいたい。

各委員の立場が全然違うため、全体を一番わかっている事務局から思い切った絵を描いてもらい、その絵に対して委員会で論議していった方がずっと生産的だ。

「いろんな問題がある中から論議すべき問題はいくつあり、そのうち委員会で決めてほしいあるいは参考意見を欲しいのはこれだ」ということを明示してもらいたい。

委員 示された案は前回に比べたらとても具体的で、イメージが湧いている部分もある。コンセプトはあくまで市民や子供たちなので安曇野を深掘りすることはとても理解できる。しかし、何度も飽きずに来てもらえるためには工夫が必要だという印象と、個人的にはサントミュージゼのように全国的な巡回展があるといいなと思う。予算的な部分と、大型バスの駐車をどのぐらい想定しているのかわからないが。

観光という部分で強調するのであれば、もう一声あってもいいと思う。わくわくするかというと、その要素は感じないというのが正直なところ。

委員長 巡回展は大体数千万かかる。それでメリットがどれだけあるのか。観光客を連れてきて数千万の利益があるのであればそれも手だ。

しかし、博物館が市民のためになるのであれば、少ないお金で市のことをしっかりと掘って、市民に自信を持ってもらい、市民が観光客を連れてきてくれる方がよほど手段としてはいい。

地域というのは、経済の問題だけでなく、精神的な部分を含めてプラスになるかどうか、これは博物館のあり方としてきちんと考えていかなければいけない。

年間予算と面積を市がどれだけ用意できるのか事務局の方で案を作ってもらい、論議ができる素材を出してほしい。

事務局には博物館がなぜ必要なのかという一文をきちんと作ってもらい、それを委員みんなで同意したらそれに向けてやっていくような方策を作っていない限りは、博物館が人によってイメージがバラバラだ。

委員 福祉の立場で参加しているのでユニバーサルデザインや市民参加といった観点からこの場では意見を述べさせてもらおう。

コンセプトで市民、特に子供たちを対象にすることについて、見てもらうだけでなく市民の参加によって博物館が運営され、みんなでこの博物館を盛り上げていくのだという機運作りが、たくさん訪ねていただくために大事である。いずれの段階からか市民参加をしてもらいながら進めていければと考えている。

また特に子供たちを対象としたいとのことだが、安曇野の未来を担う子供たちに知ってもらおうという観点で大事だと思う。であれば展示のあり方自体も既存によらず、バーチャルリアリティの活用なども必要になっていくと思う。

その活用は観光の観点からも大事だと思う。まずはそういったメタバースのところで博物館が体験できる。それを見て、外部の方々が見てみたいと思って安曇野市を訪ねる、そこで市民がもてなす側としても参加して、来た方を楽しませる、そういった形ができればいいと思っている。

委員長 博物館は建物以上にソフトの面が大事だ。

私が関わっている宮崎市の博物館では建物より先にお母さんたちを含めて、いろんな事業がされ始めた。

子供をターゲットにするのであれば、お母さんたちをどのように引っ張ってくるかを考えなければならないし、今のように学校の授業などが難しくなっているときにどのようにしたら生徒に合ったものにしていくか、それも全部考えていかなければならない。

ソフト面をどのようにやっていくか、これは安曇野市の特徴だと思っている。豊科郷土博物館の百瀬元館長、原館長たちは一生懸命子供たちのほうに投げかけをした。

市としての具体的な案を書いてもらいたい。

例えば、安曇野市の学校ミュージアムの中で、彫刻を触ってもらう取り組み。皮膚感覚はとても大事だ。展示の仕方、展示の意味もずいぶん変わってくるだろう。

そのためにも、間違えた情報を渡さないためのしっかりした学芸員が必要になってくる。

委員 コンセプトについて、コンセプトの言葉というのはいろんな分野がある。

博物館構想に書いてある、自然と人々の営みが生み出した安曇野の文化を市民とともに、「守り」「育て」「創る」、それも市民の人と一緒に。それをコンセプトにすれば全部の分野が入ってくるのではないかな。私からは「自然と文化」を入れてほしい。自然と人々の営みが生み出した安曇野なので、いいと思う。前に作られた大きな理念を利用されたいかがか。

委員長 今まで博物館というと古いものが並べられている。これから先は未来を創っていく。新しい文化を創っていく拠点になっていかざるを得ない。

だから構想では、『文化のかおるまちへと創り上げていくことを目指します』と書いている。

コロナなどで今までお金がかかってしまったこの時期に博物館を造ることが本当に必要なのかという人が圧倒的に多い。それを超えていくためにもまずは掲げるべきコンセプトを議論して、その次に分野を考えていけばいい。繰り返すが部屋の大きさ、面積が限られている。

事務局は、「人物顕彰」と言っているが、「人物顕彰」をやろうとしたら、人物顕彰部屋で終わりだ。他の分野は一切できない。

他自治体では文書館で人物顕彰を扱っている例はたくさんあるし、市役所の一部分の中に人物顕彰をやっているところもある。

博物館で何をしてほしいのかということ、事務局でも考えてもらったうえで我々の方で論議を続けさせてもらえればと思う。

委員 検討期限が来年6月と決まっています、しかも具体的にとなったときに、やはり絞り込みだけだ。

コンセプトで市民、特に子どもたちをターゲットにとあるが、これは当たり前で全く絞り込みにならない。

ただし、子供や自然をベースにということであれば山岳博物館との選別化も含めてどんどんやっていかなければいけない。先ほど委員長が「お母さん」と言っていたが、安曇野でも二つの芽が出ている。

一つ目は、子供と保護者をターゲットにした「安曇野宝さがし部」で、体験型の活動をしている。募集をかけるとその日のうちに埋まってしまう。他自治体からも「参加させてくれないか」との声をもらう。

一番の要因は保護者だ。保護者が子供と一緒に火起こし体験、美味しいリンゴや夏秋イチゴ試食などで楽しめるから。一番難しいと思われている子供と、若年層にある程度手がかりはあるということが一つ。

二つ目に、安曇野市では小学校3年生を対象に全学校で昔の体験教室をしてとても評判になった。近隣の小学校が、「ぜひやらせてもらいたい」と。今はできてないが、それも含めると、子供たちにターゲットを絞って本気でやっていくことになれば、博物館としての安曇野市の独自性とかあるいは市民の皆さんに納得感のあるものに繋がっていくと思う。コンセプトのところから、田舎こそ文化の薫る、文化豊かに醸成されてきた場所なのだとということを実感できる博物館も十分ありうると思う。

私達委員が口を開けて、「それ事務局大丈夫なの」というくらいの具体的な案を示してもらいたいと期待している。

委員長 事務局がどれだけ斬新で具体的な案を出してくるか。それと私達委員が対峙しながら、新しい世界を創っていければ、きっといい博物館が出てくるのではないかなと思う。

各館長から参考意見をもらいたい。

事務局（館長1） 建物とそこの中とか活動は意外と別だ。

展示してあるものと、それ以外のは職員、やはり人によって動いているものはとても多い。十何年も経って集めても無理なので、組織作りに力を入れるべきだと思う。

それと、子供をターゲットにというのが、豊科郷土博物館の企画展で子供を狙って一番よかったのは30代の親に来てもらったことだ。また冬に子供の学習体験教室をやるが、土日になると、親が積極的に子供を連れてくる。博物館を使ってもらって嬉しい。

なるべく多くの人をターゲットにできるようなことを考えた方がいいと思う。

最後に、新市立博物館設立まであと何年かかるかわからないが、今の豊科郷土博物館の機能と人をどうやって維持していくかについても力を入れてもらいたい。

委員長 先ほど触れた宮崎市の学芸員は、事あるごとに街の中に出ていっていろんな付き合いをして、いろんな人たちと繋がっていった。一番大きいのはまちづくりと繋がり、それからお母さんたちと繋がっているから全部動ける。

安曇野市は博物館学芸員を正規職員としては採用していない。

きちんと仕事を保障して、やる気のある人が動いてくれるように作っていくことで、建物はできても心は持っていないということがないようにしたい。

だからこそ、私達は「学芸員が必要です」と声をずっと上げていかなければいけない。学芸員のことをきちんとやっていかなければ前にいけない。

それからもう一つ、特徴をきちんと持っていないと、周りから埋もれてしまう。博物館を使ってもらえるた

めには、やはりお子さんたち。お子さんたちが何か少しでも心に引っかかるものを持って大人になっていてもらえると、またここに帰ってこようかと思ひ出してもらおう契機になると思う。

事務局（館長2） 子供たちや若い年代のお父様お母様たちをターゲットとするということだが、高齢者の方も若い子供たちとか、30代40代の方たちと関わることをとても求めている。

なので、このコンセプトで進めていけば、10万人の安曇野を巻き込むことができるのではないかなと思う。

委員長 長野県歴史館の場合でも、土日の案内や催しの際に子供を相手にさまざまなものを作ったりするのはボランティアがやっている。ボランティアにとってそれが生きがいだ。

ボランティアをそこまで育てたり、組織していくのはとても手のかかることだが、それをしなければ、建物だけできても、博物館としては機能をしてこない。ソフト面をどうしていくかということは計画の中に入れて、具体的な案を出してもらいたい。

事務局（館長3） 私は来館した方全員に説明をする方針でやっている。多くは年配の方なので帰りに言われることは「なぜこんなに地元の方々が義民について大事にされているのですか」ともう一つは「ぜひ子供たちにたくさん見てもらってほしいです」だ。

バブル以降人口が増加して、三郷地域も貞享騒動を知らない若いお母さんがいっぱいいる。やはり子供、小・中学生を持っている親がいかに関心を持つかが大切だと思う。

以前は地域としてお年寄りが子供にどんどん教えていたことが今では完全に途切れていて学校がそれを行っている。どうもその辺がうまく進んでいかないと思う。構想の中に、人権も入っているが、当館の性格として、郷土史や人権を考えていくと人権共生課などがやっているイベント等とタイアップしながらもっといろんな形で活動ができるといいと思う。

委員長 博物館が人によって持っているということの典型ではないかと思う。特に、展示に関しても、人権問題は現在の最も大事な視点なので、分野の役割分担も考えていかなければいけない。

いずれにしても、事務局の方で理想とする案をきちんと出してもらいたい。

委員 A案B案C案とあるが、どのような理由でA案からB案に延床面積が下がったり、C案に下がったりしたのか。

予算面か。A案を維持するために例えばクラウドファンディングや市民からの寄付などの方策を取ることもあるのか。

事務局 専門家に予算を見積もってもらってみたいとわからないが、仮に予算を見積もってみると残すことになる既存施設の改修工事を考慮すると、どの案もそれほど大きな違いがないと考える。

一番は獲得できる土地の面積。農地転用や安曇野市の土地利用条例といった法的な縛りのほうが、私どもとしては今乗り越えるべき課題だ。

委員 建設資金について、クラウドファンディングのような方法もありうると思う。

私は市民の人たちが味方になるかどうか分かれ目だと思う。

博物館を普通に造っている人ばかりではなくて既存館施設をリニューアルしているような設計士やバーチャルも含めて、少しでも予算を切り詰める方策がないかをよく考えた方がいい。

委員長 私達はやはり理想を高く掲げるべきであって、それに向けてやれること、やらないことを分けていくしかない。

土地がないということを最初から考えるのではなくどうしたらその土地が獲得できるかというところに努力して欲しい。

狭いものを造って後で禍根を残すのか、きちんと今後対応できるものを造っていくのかは、私達の責任問題であり、本当に造ってよかったなど言ってもらえるように、この委員会は論議をしていくつもりだ。だからこそ、コンセプトも大事になってくる。

最終的な部分の責任は委員会だから我々が取るが、案はしっかりと事務局に作ってもらって、我々が本当にそれでいいのかということ論議できるようにしてもらいたい。

委員 人の問題について、新市立博物館がいつ建つのかはわからないが、私達の博物館を構成して運営していくためには早く人が欲しい。次の世代をどう獲得するかということが次なる問題としては大事ではないかと思うので、今から考えておいてもらえればと思う。

委員長 博物館造りには学芸員がどうしても必要だ。

だから、本委員会としては、「早急に博物館造り、あるいは博物館運営の核となる学芸員を採用してほしい。」

これを委員会意見として出したいと思う。

やれるかどうかは別として委員会として責任を取っていくためにも、どうしても必要になることだと思うので委員全員の一致をもってこのようにさせてもらう。

事務局 人員について、人口減で安曇野市職員はこれ以上増やせない予想だ。

学芸員を配置するためには指定管理施設を含めた文化課の職務及び予算を見直さなければいけない。

また、学芸員を新市立博物館につけるとなったときに、他の館でやってきたことをどのように担ってもらうかという考えも必要だと考える。

系の職員を博物館につければ、学芸員は1人つけられるかもしれない。

ただ、博物館の業務はその分増えるということになる。数多くの文化事業を精査していかなければならない。

スケジュールについては現状では来年度初めからの予算付けが難しいため、令和7年6月までには博物館に関する計画、人員体制を決めたうえで、来年度6月議会か9月議会に建物の必要な経費、積立金額を示した計画を出して、予算をつけ、本格的に着手していけるように整えたい。なるべく早く建物を建てたい。

次回にはより具体的な案を示して、建設的な話し合いができるようにしていきたい。

委員長 一気に博物館建設について、前に進んだことを改めて思った。

今の話は、人を増やすためには、どうやって、自分たちの身を削るかというところまで言っているのだから、私達もそれだけの対応をしていきたいと思う。

4 その他

今後の委員会日程；後日調整

既存施設巡見日程；後日調整

5 閉会（12：00）